

# ★ 高岡市民歩こう会 ★ H28 第10回 平成28年9月18日(日)

福光 だまし川と「道の駅福光＝なんと一福茶屋」コース 予定 約6km 予定表

- 9:00 福光駅前集合 準備体操・トイレ
- ↓
- 9:50 火伏石と火伏神社
- ↓
- 10:25 道の駅福光＝なんと一福茶屋 トイレ
- ↓
- 11:20 だまし川石碑
- ↓
- 11:45 福光公園 昼食・トイレ
- ↓
- 12:45 福光公園出発



帰りの電車			
福光→砺波		福光→高岡	
福光発	砺波着	福光発	高岡着
13:34	13:52	13:34	14:13
14:34	14:59	14:34	15:21

明治の時代からこの地にたたずむ栖霞園。現在はお茶会などに利用され市民の憩いの場となっています。平安時代の末期に砺波地方を支配した石黒太郎光弘が築城。その城域は広く、城の周囲には城下町が形成されていました。文明13年(1481年)井波瑞泉寺の一向宗徒との戦いに敗れ、地域は荒れ放題となっていました。慶応の頃に前村礼蔵らが漢学者宮永菽園とその弟子を招き教を仰ぎ、明治2年(1869年)に荒れた城の一角に郷学所を建て栖霞塾と称し、地方の学問の中心としたといわれています。



寛政3(1791)年の大火において最終鎮火地点に置かれた『火伏石』。『鎮火石』『火産主霊の神』と称して、しめ縄をし、榊や花を捧げるなど、敬われていた。住民も消防団や自警消防組織など、消防関係者が毎年2月22日に『火伏神事』として宇佐八幡宮に詣で、消火訓練を行い、その日一日、なるべく火を使わないように過ごすなど、防火意識を高めていた。

しかし、昭和54(1979)年4月11日午後3時過ぎ(正確な時間を失念)、またしても大火が起こる。西町の外れの製材所から出火。『医王おろし』と呼ばれる南西の強風にあおられ、飛び火延焼も激しく、西町を中心に49世帯が全半焼した。その時も、火伏石付近で鎮火したことから、地域住民の間で『火の神』としての火伏石に対する畏怖と尊敬の念が再認識されるようになった。

昭和の福光大火から10年後の平成元年、場所を道路向かい側に移して、火伏石をご神体とする『火伏神社』を建立し、地域住民からより一層敬われている。



棟方志功が「豆黒川に住むかっぱが人をだます」という伝説から名付けた『だまし川』。かっぱが川辺で腰掛けている姿が見かけられたそうです…  
蛍と一緒に『かっぱの姿』もご覧いただけるかもしれません。

次回は、9月25日(日)  
スポ・レク高岡2016「健康ウォーク」  
二塚・恒性皇子探訪ウォーク(約5km)  
集合 午前8時15分 高岡市民体育館 二塚駅解散

